

## 第3回 松ヶ岡建造物整備委員会（議事録）

日時：平成28年2月20日（土）

9：30～11：30 まで

会場：松ヶ岡（旧山崎家住宅）

### 1 開会

### 2 挨拶

- ・教育長
- ・委員長

今日は文化財の指定を市からいただいたという報告がある。啓発という意味では着実な進展している。

これだけはやらなければならない範囲を専門家の先生から意見をいただいて決め、後世に残す。できるだけしっかり対象を確定していきたい。

一括して修復工事ができる情勢ではなく、専門委員にはどの順番が良いか専門的な見地から、アドバイスして欲しい。それと同時に整備の進捗が実感できる順番も専門的な見地と矛盾しない形で考えたい。

### 3 報告事項

- ・指定名称は、「松ヶ岡(旧山崎家住宅)」とする。種類は有形文化財(建造物)。宅地指定で地面も指定する。建物だけでなく、庭園や堀等の施設、歴史的意義、山崎家の業績などを含む名称。地域でも定着している。
- ・修復はできる範囲で進め、県、国の指定への働きかけも、積極的に行う。
- ・今後「山崎」へ表記を統一していく。

### 4 議事…（進行：委員長）

（1）修復対象建物について、（2）松ヶ岡建造物修復・活用（案）について一括審議。

・山崎家の歴史に関しての資料を収集する。附として棟札、絵図を指定しているが、その他の文書もできるだけ収集する。埋もれている資料もある。松ヶ岡のPRをしないと資料も集まらない。

・現在では修復よりも活用が大きなウェイトを占め、修理だけが大事ではなく、保存のためにも活用をする。

・建物を見るだけだと、15～30分くらいで終わるが、建物を見るだけの松ヶ岡が楽しい場所か。普段は見学だけでも、プラスαで何かやれることが活用であり、面白いこと、皆が感動できることを盛り込んだ活用計画がいいと思う。その計画にふさわしい、少なくとも矛盾しない修復をする。

・各部屋の活用計画がないと話が具体的にならない。それにより工事額も変わる。活用の限度、方向性を付けて行かないと、やる気も続かないし、大勢の協力も得られない。変更になっても良い。

・掛川市民の中にも温度差がある。できるだけ多くの人に来てもらいたいと思う。

- ・管理棟、便益施設としても掛川銀行の復元を考える。
- ・土間の天井を外し、梁などが見える状態にする。小屋組の特徴、地震の後の工夫が見て取れるようになる。現状のトイレについては暫定的な状態として残すなど、過渡的な状態も考える。工事の整理が必要。
- ・天井、床を外すのは、この建物に関わっている建築家のボランティアでやればどうか。ある程度の技術を持っていて、古い建造物の実績もある人たちにボランティアでやってもらう。みんなに見せてあげたい。
- ・活用方法の見地、観点も入れて、計画、順番を立て直す。事務局は専門委員と相談して進め、整備委員会とプロジェクト推進委員会の両方に諮る。
- ・奥座敷もやはり近代和風の家ということで高いレベルのものであり、庭と関係して作られている。庭との関係を重視すると価値が出てくる。

5 閉会 閉会后、山崎家から寄贈された『掛川誌稿』の披露。